



週刊

こんにちは日本共産党です 八千代市議団ニュース

堀口 明子 ☎047(752)0453 植田 進 ☎047(487)9754
伊原 忠 ☎047(488)7207

市議団ホームページ <http://jcp-yachiyo.jp/>
共産党控室メール kyousan@city.yachiyo.chiba.jp



第316号

2017年4月24日

発行

日本共産党
八千代市議会議員団

八千代市大和田新田
312-5

子ども医療費助成の窓口負担ゼロが流れ

子ども医療費の助成制度は、内容はまちまちですが、全国すべての自治体が実施しています。八千代市は、中学校を卒業するまで無料ですが、通院や調剤は1回に300円、入院は1日300円を、窓口で支払います。窓口負担ゼロの自治体が広がっています。千葉県内54市町で窓口負担が無償の自治体は、中学校卒業までが勝浦市や君津市などを含めて10市町。就学前の子どもに限っての無償は浦安市と大網白里市。市原市は0歳児だけ無償です。



未就学児の窓口負担ゼロの請願が不採択に

3月議会に女性団体から「未就学児の医療費窓口負担ゼロを求める請願」が提出されました。窓口負担ゼロは「八千代市を子育てしやすい街」にするための大事な施策です。5100万円の予算化で実現できます。

しかし、請願は、賛成6（共産と奥山、三田、横山の各議員）、反対21（公明、市民ク、自民・横山議員を除く、新未来、新広場と菅野、塚本の各議員）で不採択となりました。

医療費無償化は子どもの命を守る仕組み

請願を審議した福祉常任委員会で保守・公明の議員は、「コンビニ受診（過剰受診）」につながる「コンビニ受診になれば小児科医も看護師も多忙になる」ことを理由に反対しました。

しかし、小児科の専門医は「どこが痛いのかをうまく伝えられない子どもだから、早期に受診して重篤化を防ぐ必要がある」と言っています。また、厚生労働省の「子どもの医療制度の在り方等に関する検討会」は、「まとめ」（2016年3月28日）の中で「小児の貧困の問題が深刻になる中で、いざという時にちゅう躇なく医療機関にかかれる医療費無償化については、子どもの命を守る仕組みになっている」という意見を取り上げています。

日本共産党は、未就学児の窓口負担の無償化を実施し、安心して子育てできる八千代市を実現するために奮闘します。